

◆ 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

――月の明るい晩、少将は、出先からの帰り道にある家の前を通りかかった。――

くまなき月に、ところどころの花の木どもも、ひとへにまがひぬべく霞かすみたり。いますこし、過ぎて見つるところよりもおもしろく、過ぎがたき心地して、

そなたへと行きもやられず花桜にほふ木かげにたちよられつつ

とうち誦ずんじて、早くここにも言ひし人ありと思ひ出いでて立ちやすらふに、築地＊ついちのくづれより、白き者の、
ためらいながら立ち止まっていると、

いたうしはぶきつつ出づめり。あはれげに荒れ人げなき所なれば、ここかしこのぞけど、とがむる人なし。
たいそう咳(せき)をしながらかい

5

このありつる者の返る呼びて、「ここに住み給ひし人は、いまだおはすや。『山人＊にも聞こえむといふ

人あり』とものせよ」と言へば、「その御方はここにもおはしませず。何とかいふ所になむ住ませ給ふ」

と聞こえつれば、「あはれの事や。尼などにやなりたるらむ」とうしろめたくて、「かの光遠＊みつとほに会はじや」
申し上げたので、

など、ほほゑみてのたまふほどに、妻戸＊やはらかい放つ音すなり。

語注

＊築地…土の堀。

＊山人…山奥に棲む仙人。

＊光遠…少将の知人の名前。

＊妻戸…寢殿造りで、屋敷の出入り口に設けた両開きの板戸。

問1 傍線部はどのようなことを言おうとしているのか。その説明として最も適当なものを次から選べ。

ア 山奥にいる仙人に、話がしたいという人はどこにいるのだろうか。

イ 山奥のような場所に棲む仙人のようなあなたに、私は話をしよう。

ウ かつてここに住んでいて山奥に帰ったらしい仙人と、話がしたい。

エ 山奥にいる仙人のようなあなたに、話があるという人を知っている。

問2 本文の内容に合致するものを、次から一つ選べ。

ア 少将は、風情ある家に咲く桜の美しさに、つい足を止めることにした。

イ 白い服を着た者が、荒れ果てて人気がない家の中の様子を伺っていた。

ウ 少将が以前恋仲になった女性は、今は出家して尼になってしまっていた。

エ 少将が立ち寄った家は荒れ果てていて、もはや誰も住んでいなかった。

6
復習

「堤中納言物語」

名前

年 組 番

正答数

12

検印

文法Q

傍線部①～⑤について、本文横の□に、意味・活用形を埋め、文法の説明を完成させよ。

省略Q

本文横の□に省略された語句を記せ。(本文中「リード文を含む」の語句で答えること。)

——月の明るい晩、少将は、出先からの帰り道にある家の前を通りかかった。——

くまなき月に、ところどころの花の木どもも、ひとへにまがひぬべく霞みたり。いますこし、過ぎて

見つるところよりもおもしろく、過ぎがたき心地して、

助動詞 □ 形

そなたへと行きもやられず花桜にはふ木かげにたちよられつつ

とうち誦じて、早くここにも言ひし人ありと思ひ出でて立ちやすらふに、築地のくづれより、白き者の、

助動詞 □ 形

いたうしはぶきつつ出づめり。あはれげに荒れ人げなき所なれば、ここかしこのぞけど、とがむる人なし。

主語 □ は

このありつる者の返る呼びて、「ここに住み給ひし人は、いまだおはすや。『山人にも聞こえむといふ

助動詞 □ 形

人あり』とものせよ」と言へば、「その御方はここにもおはしませす。何とかいふ所になむ住ませ給ふ」

主語 □ は 助動詞 □ 形

と聞こえつれば、「あはれの事や。尼などにやなりたるらむ」とうしろめたくて、「かの光遠に会はじや」

主語 □ は 助動詞 □ 形

など、ほほゑみてのたまふほどに、妻戸やはらかい放つ音すなり。

単語Q

波線部⑦～⑩の本文中での意味を答えよ。(活用する

語は終止形の訳語でよい。)

☒ その他の覚えておきたい単語くやる…すっかりする。(最後まで) くしきる。
もの言ふ…男女が情を通わせる。⑦ ()
⑧ ()
⑨ ()
⑩ ()

() () () ()